

第10章 損益分岐点とその展開

本日のテーマ

① CVP分析

焼きそばの模擬店で理解しよう

結婚式で利益をあげるには？

② 固変分解について

キャパシティコスト（固定費）

アクティビティコスト（変動費）

試験では高低点法押さえておけばよいでしょう

③ 感度分析と安全余裕率

目標利益

目標利益率

安全余裕率

④ 建設業の損益分岐点分析

一般的な損益分岐点売上高の計算（設例 10-3）

建設業の特性（工事原価はほとんど変動費）による、（あくまでも）簡便法

建設業では、長期にわたる関係で借入金負担による多大な金利負担が常態化（固定化）する傾向にある

→支払利息を固定費に加算

→支払利息以外の営業外費用は変動費（営業外収益はマイナスの費用と考える）に加算

練習問題 10-8 で確認したほうが早い（試験では指示が入ると思います）

⑤ 応用論点→資本回収点分析

変動費を変動的資本（棚卸資産など）、固定費を固定的資本（変動的資本以外の資産→イメージ的には有形固定資産など）と考えて計算します。

あとは、BEPと同じ方法

マトメでは、練習問題を実施します！

① CVP分析

焼きそばの模擬店で理解しよう
結婚式で利益をあげるには？
これは、大丈夫ですね。

② 固変分解について

キャパシティコスト（固定費）
アクティビティコスト（変動費）

準固定費

→1～3年 50,000 円→4～6年 80,000 円→7～10年 100,000 円

準変動費

→イニシャルコスト 100,000 円→その後は毎年 50,000 円

こんなイメージです

建設業における固定費・変動費

＜固定費＞

工事の受注に関係なく発生する経費≒販売費および一般管理費

＜変動費＞

工事に必要なすべての経費≒完成工事原価

固変分解は、試験対策としては高低点法押さえておけばよいでしょう

＜設例 10.1 で解説します＞

＜設例 10.2 も解説しましょう＞

③ 損益分岐点分析と感度分析と安全余裕率

設例 10.3・10.4・10.5 でいきましょう

④ 建設業の損益分岐点分析

建設業の特性（工事原価はほとんど変動費）による、（あくまでも）簡便法

建設業では、長期にわたる関係で借入金負担による多大な金利負担が常態化（固定化）する傾向にある

→支払利息を固定費に加算

→支払利息以外の営業外費用は変動費（営業外収益はマイナスの費用と考える）に加算

練習問題 10・8 で確認したほうが早い（試験では指示が入ると思います）

⑤ 応用論点→資本回収点分析

変動費を変動的資本（棚卸資産など）、固定費を固定的資本（変動的資本以外の資産→イメージ的には有形固定資産など）と考えて計算します。

あとは、B E Pと同じ方法

練習問題 10.9 で解説します

マトメ

10.1

(1) $X - \text{変動費率} \times X - \text{固定費} = 0$ を式と口頭で説明

(2) 固定費を減らす、変動費率を下げる（例をあげながら）

(3) 足すと 1（これも例をあげながら）

10.2

10.3

10.4

10.5

10.6

10.7

10.8（説明済）

10.9（説明済）